

当院透析室の採光とスタッフの就労環境

医)衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○白濱美和 熊 博和 小松利恵子 丸山祐子 李 嘉明 橋口純一郎 原田
孝司 船越 哲

【背景】

透析室スタッフの穿刺等処置のための証明は 350 ルックス(1s)～500 1s 程度とされている(厚労省マニュアル)一方、患者にとっての推奨される照度は、病室の場合には 100-200 1s となっている(JIS 照度基準)。

【目的】

透析室における採光を調査し、スタッフの意識と就労環境を検討する。

【対象・方法】

当法人の 3 透析室において透析ベッド周辺の照度を測定し、3 施設全てで勤務したスタッフ 15 名に対し意識調査を行なった。

【結果】

平均照度は A 施設 148 1s, B 施設 462 1s, C 施設 620 1s と大きな違いがあった。スタッフは、照度の低い A 施設で 46.7%が「穿刺時に暗い」、53.3%は「透析室業務に適切でない」と感じていたが、「安全のため照度を上げるべき」は 0%であった。

【考察】

スタッフは暗いと感じながらも、患者優先の環境で作業を行なっていると思われた。今後は、安全な環境をふまえて柔軟に対応していく必要がある。